

12年ぶりに健康保険料率を 8.8%から9.3%に引き上げへ

※()内は1人あたり額。

予算総額 **46億38百万円**

収支差引額
1億52百万円
(18,897円)

積立金より繰り入れ **47百万円**

その他の収入 **80百万円**(9,905円)
国からの交付金等

その他経常収入 **4百万円**(455円)
施設利用料等

保険料収入 **45億7百万円**(558,765円)
みなさんの毎月の給料や賞与から納めていただく、
健保組合の主たる財源

予算基礎数値

		対前年度予算	
被保険者数	8,066人	+107人	
平均標準報酬月額	389,738円	+17,869円	
保険料率	事業主	54.75/1000	—
	被保険者	38.25/1000	—
	合 計	93.00/1000	—

健康保険料率を前年度より5/1000(労使折半)引き上げました。

収入

予備費 **2億円**
不意の支出に備えるための費用

その他の支出 **72百万円**(8,853円)
財政調整事業拠出金等

事務費・その他経常支出 **25百万円**(3,117円)
健保組合の事務費用、連合会費など

保健事業費 **1億4百万円**(12,929円)
がん検診・歯科健診・人間ドックの補助など、みなさんの健康に役立てていただくための事業

国への納付金 **21億44百万円**(265,825円)
高齢者医療を支えるための財源として健保組合が国へ負担する費用

保険給付額 **20億93百万円**(259,504円)
みなさんが受けた医療や出産、死亡、休業に対する給付費用

保険料収入の
2.3%に相当

保険料収入の
47.6%に相当

保険料収入の
46.4%に相当

支出

令和4年度予算●介護保険

予算基礎数値

徴収対象 40歳以上(第2号被保険者)人数		4,315 人
平均標準報酬月額		429,628 円
保険料率	事業主	8.75/1000
	被保険者	8.75/1000
	合 計	17.50/1000

●収入

介護保険収入	5億600万円
その他の収入	0万円
合 計	5億600万円

●支出

介護納付金	5億440万円
その他の支出	530万円
合 計	5億970万円

準備金より繰り入れ **370万円**

●介護勘定

令和4年度介護勘定の収支予算額は5億970万円となりました。支出科目である介護納付金の拠出額は今年度は5億440万円の見込です。不足分は準備金より繰り入れて収支均衡を図ります。

今後も当健保組合は事業主とのコラボヘルスの推進、疾病の早期発見・早期治療のための対策をさらに強化していきます。これらの事業をご活用いただき、健康の維持・増進に一層のご協力をお願いいたします。

令和5年度は急激な上昇が見込まれています。また、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に到達し始めることで後期高齢者支援金が急増する「2022年危機」が到来するなか、令和5年度以降は運営についても予算を許さない状況が続く見込みです。

収入面では被保険者数、平均標準報酬月額ともに対前年度予算より増加を見込み、また保険料率の見直しにより、保険料収入は前年度予算比12%増の45億7百万円と見込みました。

支出面においては、保険給付費(医療費等)は20億93百万円とコロナ前のレベルに戻る見込みとされています。また、国への納付金(高齢者医療制度への義務的負担)はコロナ禍での受診控えにより高齢者医療への負担が減少し、全体で5.8%減の21億44百万円と見込みました。ただし、現状足元ではコロナ前の受診状況に戻っていることもあり、令和5年度は急激な上昇が見込まれています。

当健保組合の財政状況は、増え続ける高齢者医療への負担により、6年連続の経常赤字と厳しい状況が続いています。この状況は今後も続くことが見込まれることから、財政の健全化を図るため、令和4年度の健康保険料率を前年度より0.5%引き上げ、9.3%に改定されました。

●令和4年度予算

●健康保険料率は9.3%に改定

予算のポイント